

令和3年度

事業報告書

◇株式会社 ひなたぼっこ

◇デイサービス ひだまり  
・地域密着型通所介護

◇デイサービス えんがわ  
・地域密着型通所介護

◇グループホーム にじいろ  
・共同生活援助

## 株式会社 ひなたぼっこ 事業報告書

### 1 法人理念

- ・ 利用者やご家族の皆様から信頼される事業所を目指します。

「皆様からの信頼を得るために、出来る限りの受入れを致しました。昨年度同様に、事前情報で暴力行為があるという方でも受け入れし、限界まで誠意を尽くさせていただきました。他利用者に危害が及ばないうちに断念した方もおりますが、ただ断るだけでなく行ってみてからの判断をしたため、本人・ご家族からは納得していただいております。」

- ・ 優しさと温かさに満ちた事業所を目指します。

「昨年度同様、暴力行為を受けたとき又は受けそうになった時でも、対話をもって沈静させております。時には親子喧嘩・兄弟喧嘩のような口論になるときもありますが、結果的には温かい対応だと利用者様からお言葉をいただいております。今年度も職員誰でもではなく、管理者もしくはその日の職員の中で管理者に準ずるものに限定した対応といたしました。」

- ・ 明るく元気のある事業所を目指します。

「若い職員が半数を占める事業所ですが、皆、明るく活発に従事してくれております。」

- ・ 地域に開かれた事業所を目指します。

「法律に定められている運営推進委員会を年に二回（今年度は新型コロナウイルス流行のため 3/26・3/29 分が中止）開催しております。地域の方々にご報告させていただいております。コロナ渦が沈静化に向かいませんが、えんがわの運営推進委員会を発足（5/29）させて、法令遵守の開催をいたしました。」

### 2 運営方針

利用者様が安心して充実した環境や利用者本位のケアを提供し、ご家族、地域の皆様とのふれあいにより事業所の温かさが一層感じられるような居宅サービスの提供に努めます。利用者様本位のケア計画を作成し、サービス提供することによって、『第二の我が家』に近付けるよう努めます。

「利用者様本位のケア計画を作成し、サービス提供することによって、『第二の我が家』に近付けるよう努めました。」

また、介護記録（ケース記録）を介護計画書に準じて記録することにより、モニタリングを行いやすくいたしました。

ケアマネジャー様やご家族への報告がより適宜に行うことができ、安定した利用者確保に努めました。」

### 3 株主総会（地域運営推進会議兼務）の開催

5月24日 午前10時00分 開催 同 10時50分閉幕

5月 年度事業報告、決算の承認（注1）

3月 翌年度 事業予算案、事業計画の審議（注2）

※ 上記以外の地域運営推進会議は必要に応じて開催。

※ 株主総会は決算報告時に開催（注3）

（注1） ひだまり事業所は令和3年5月26日に、

えんがわ事業所は令和3年5月29日に実施。

（注2） ひだまり、えんがわ共に新型コロナ流行の影響を受け未実施。

（注3） 令和4年3月25日に臨時で株主総会を行い、役員の増員を承認され、次年度より役員の増員が決定しました。

### 4 事業運営

#### ① 第二種社会福祉事業

地域密着型 通所介護（デイサービス ひだまり）経営

目標として、実人数18名（月）延べ日数250日、平均利用人数8.0人を目指す。

4月	実人数12名	延べ日数160日	活動日数30日	平均利用人数5.3人
5月	実人数15名	延べ日数154日	活動日数31日	平均利用人数5.0人
6月	実人数14名	延べ日数159日	活動日数30日	平均利用人数5.3人
7月	実人数13名	延べ日数184日	活動日数31日	平均利用人数5.9人
8月	実人数14名	延べ日数203日	活動日数31日	平均利用人数6.5人
9月	実人数15名	延べ日数206日	活動日数30日	平均利用人数6.9人
10月	実人数17名	延べ日数224日	活動日数31日	平均利用人数7.2人
11月	実人数14名	延べ日数193日	活動日数30日	平均利用人数6.4人
12月	実人数14名	延べ日数199日	活動日数31日	平均利用人数6.4人
1月	実人数13名	延べ日数188日	活動日数31日	平均利用人数6.3人
2月	実人数14名	延べ日数217日	活動日数28日	平均利用人数7.8人
3月	実人数15名	延べ日数213日	活動日数31日	平均利用人数6.9人

合計 実人員170名 延べ日数2300日 活動日数364日 平均利用人数6.3人  
(昨年 200 2659 7.3)

昨年度より減少したのは、管理者（社長）不在が多く営業困難だったことと、他事業所（病院を含む）で受け入れ困難者をお泊りにて長期間を預かることにより、職員の疲弊と利用者の不平につながり、新規利用者獲得が困難だったことと併せて、結果的に減少となりました。

地域密着型 通所介護（デイサービス えんがわ）経営

目標として、実人数 15 名（月）延べ人数 250 日、平均利用人数 8.0 人を旨す。

4月	実人数 16名	延べ日数 259日	活動日数 30日	平均利用人数 8.6人
5月	実人数 16名	延べ日数 262日	活動日数 31日	平均利用人数 8.5人
6月	実人数 18名	延べ日数 283日	活動日数 30日	平均利用人数 9.4人
7月	実人数 17名	延べ日数 289日	活動日数 31日	平均利用人数 9.3人
8月	実人数 16名	延べ日数 271日	活動日数 31日	平均利用人数 8.7人
9月	実人数 17名	延べ日数 257日	活動日数 30日	平均利用人数 8.6人
10月	実人数 18名	延べ日数 295日	活動日数 31日	平均利用人数 9.5人
11月	実人数 19名	延べ日数 303日	活動日数 30日	平均利用人数 10.1人
12月	実人数 18名	延べ日数 299日	活動日数 31日	平均利用人数 9.6人
1月	実人数 18名	延べ日数 278日	活動日数 30日	平均利用人数 9.0人
2月	実人数 18名	延べ日数 272日	活動日数 28日	平均利用人数 9.7人
3月	実人数 19名	延べ日数 287日	活動日数 31日	平均利用人数 9.3人

合計 実人員 210名 延べ日数 3355日 活動日数 365日 平均利用人数 9.2人  
 （昨年 206 3233 8.7）

昨年度よりお泊り利用者の増加に伴い、半日利用しかできない方が新規利用者で余儀なくされました。お泊り利用者の入院や利用中止者の翌日から、一日利用に切り替える等、定員超過にならないように、かつ、満床になるように努めました。平均利用人数が9人を超える月が目立ちますが、半日利用者を1カウントでの計算となっております。そのため、待機者の増加に伴い大家さんの協力も授かり（面積拡張工事）、3月は定員を13名に変更いたしました。

共同生活援助（グループホーム にじいろ）経営

10月	実人数 0名	延べ日数 0日	活動日数 0日	平均利用人数 0人
11月	実人数 0名	延べ日数 0日	活動日数 0日	平均利用人数 0人
12月	実人数 0名	延べ日数 0日	活動日数 0日	平均利用人数 0人
1月	実人数 0名	延べ日数 0日	活動日数 0日	平均利用人数 0人
2月	実人数 0名	延べ日数 0日	活動日数 0日	平均利用人数 0人
3月	実人数 0名	延べ日数 0日	活動日数 0日	平均利用人数 0人

実質の運営経営者が運営困難により、当法人がその後継者に依頼された秦野市曾屋のグループホームの購入を進めてきたのですが、建物の損傷を主とした契約不履行により、再認定を余儀なくされました。10月に4人の利用者は、物件探索中に他施設に入居してしまい、2月には新たな物件で認定が取れましたが、実際には今年度の利用者確保には至りませんでした。

今年度の事業活動収支増減差額は、	−4,304,783 円
次期繰越は、	−7,693,116 円
今年度の当期資金収支差額合計は、	4,568,872 円
当期末支払資金残高は、	18,411,004 円

## 5 新規事業の展開

将来的には、高齢者福祉のみならず障害者福祉にも着手することで、高齢者・障害者・障害児の融合した福祉サービスの展開をしたいが、そのはじめとして、障害者グループホームの運営に着手する。

「今年度は、障害者グループホームの開設を行う事ができました。現時点では開設後の実績がありませんが、次年度に本事業の充足を図るために大きな足掛かりを作れました。」

## 6 重点施策

### (1) 経営基盤の確立・強化

現行事業所の特徴の周知と利用者の獲得強化を図る。

- ① 事業所の数値目標：地域密着型 通所介護事業 2 事業所とも稼働率 90%以上を目指す。
- ② 現行事業所が、居宅支援事業所等に全職員が営業マンとしての意識付けを行い、利用者の確保に努める。収益を増やす方法をリスト化し、職員の協力のもとその実施を進める。

「今年度は、基幹事業である地域密着型 通所介護事業において、2つの事業所ともに充足を図る事が出来た年度でした。

年度を通じて高い稼働率を保ち、特にえんがわ事業所では待機していただく方が増えるに至り、事業拡大（定員13人まで）を行うことが出来ました。

一方で、新規事業である障害者のグループホームに関しては、良い人材が確保できず、また、営業力不足もあり利用者の獲得に至れませんでした。」

### (2) 人材確保と職員の資質向上

現行利用者の重度化への対応及び介護（入浴）サービスの向上のため、職員の確保と資質の向上を進める。

- ①ハローワークや社会福祉協議会等を通じて介護求職者へのアプローチの場を増やし、採用に繋げていく。
- ②県内の社会福祉養成校や見学の受け入れ等により、新卒や新規資格取得者の獲得

を目指す。

- ③キャリアパスの実施により職員に求めるレベルを明確にし、資質の向上に繋げる。
- ④人事考課制度を導入することによって職員全体のレベルの底上げを図る。
- ⑤退職金制度を周知し、職員が安心して働き続ける環境を整備する。
- ⑥各種マニュアルを整備し、業務手順の統一化をする。

「今年度はひだまり事業所では管理者候補の確保、えんがわ事業所では優秀な人材を確保することができました。そのことにより、職員の資質の向上に関して、内部での教育状況に改善が求められました。

えんがわ事業所では大幅に事業拡大を図れたことにより、職員毎のサービスの質に差が出てしまう事が懸念されましたが、管理者を中心に夜勤者も含め何度も協議を行い、安定した良質のサービス提供に努めました。

また、えんがわの管理者がひだまり事業所の会議に出席する等、必要に応じて助け合うことができました。」

### (3) 地域との調和、アクティビティの充実

福祉資源を活かし、地域に親しまれる施設づくりを目指して、災害時の福祉避難所の役割や地域の介護支援を担い、特に今年度は、正しい感染症予防対策をすることで、地域にも浸透させ地域貢献を目指す。

- ① 町内会のお祭り等行事は新型コロナウイルス流行のため中止だと思われるので、地域のために何か少しでも貢献できることを行う。
- ② 通所介護事業所同士の横の繋がりを強化し、情報交換がより円滑に行えるように交流を進める。
- ③ 社会福祉実習の受け入れを積極的に行い、地域の福祉人材育成に寄与する。
- ④ ボランティアの受け入れ環境を一層強化し、地域住民による福祉貢献の下支えを行う。

「今年度も昨年に引き続き、ほとんどの内容で新型コロナウイルスの流行による影響があり、地域との調和を進めることが出来ませんでした。」

### (4) 苦情解決への取り組み

利用者のご家族の皆様の苦情を真摯に受け止め、適切な施設運営に資するため、苦情の有効な活用を進める。

- ① 第三者委員会（運営推進委員会）の年2回の開催
- ② 家族への満足度アンケートを実施し、サービスの向上を図る

「運営推進委員会については、新型コロナウイルス流行による影響もあり、年1回

の実施となりました。

アンケートの実施には至りませんでした。今年度も苦情はありませんでした。」

#### (5) 防災訓練の実施

万一の事態に直面しても、職員が冷静に対処できるよう、日頃から訓練を行う。

- ① 防火訓練の年2回の実施
- ② 新人研修における防火研修の実施
- ③ 救急救命講習の実施
- ④ 災害時訓練の年1回の実施

「えんがわでは消防立ち入り検査を実施し、特に訓練未実施の指摘を受けました。次年度には改善を図ります。」

#### (6) 職員交流

- ① 福利厚生の一環として諸交流会などを衛生委員会にて企画する。
- ② それぞれの事業所ごとに歓送迎会・親睦会を適時行う。  
「それぞれの事業所で、会議・懇親会を行いました。」

### 7 会議・委員会

運営会議	今年度2回実施（随時その日出勤職員で開催）
新規利用者検討会	ケース会議を含み実施（随時その日出勤職員で開催）
衛生委員会	発足できませんでした
事故防止・身体拘束委員会	その都度 臨時的に実施 又はケース会議時に実施
感染症対策委員会	運営会議の中に含み実施

### 8 健康管理

- ① 健康診断 年1回（7月～8月） 1年以上経過した職員に実施
- ② インフルエンザ予防接種（12月） 職員全員に実施
- ③ 新型コロナウイルスワクチン接種 同上

### 9 研修計画

「今年度は研修計画の作成に至りませんでした。」